

**地震研究所**

I	研究水準	.....	研究 17-2
II	質の向上度	.....	研究 17-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、一名当たり年間平均 5.6 件の研究論文を著し、その半数以上は英文である。国・地方自治体・ライフライン企業との共同研究・受託研究も多数実施されている。世界規模での共同研究も活発に行われており、国際的な研究拠点として外部評価においても認められている。研究資金の獲得状況については、多様な外部資金を獲得しており、平成 19 年度の教員一名当たりの獲得資金は約 2,000 万円と観測固体地球科学分野では極めて高いことなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、共同研究の採択課題数は年間 70 件弱であり、半数強が学外研究者が代表の研究課題となっており、延べ参加者が 900 名を超えている。データベースを利用する形式での全国共同利用研究も実施しており、保有する 14 のデータベースのうち、10 のデータベースについては、年間 1 万件を超えるアクセス数を超える利用があった。また、広域の観測網を使った研究を実施することなどは、全国の大学の連携・協力を図った。さらに、文部科学省受託研究「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト」等の地震防災に関するプロジェクトを推進するとともに、地震・火山噴火の防災に関係する国・地方自治体・ライフライン企業に専門知識を提供するアウトリーチ活動を継続していることなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、データベースを利用する形式での全国共同利用研究も実施しており、保有する 14 の内 10 のデータベースについては、年間 1 万件をこえるアクセス数を超える利用があるという特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、地震研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、地震研究所が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、大型観測網を活用した研究等をはじめとし、観測固体地球科学分野及び関連分野において卓越した業績を上げている。これらには、共同利用・共同研究の成果も含まれている。社会、経済、文化面では、津波検知システムの開発等の卓越した研究業績を上げている。さらに、地震・火山噴火の防災関連の国レベルの主要委員会に人材を輩出している。また、過去4年間の研究成果によって、20件を超える国内外の学会賞等を受賞している。また、研究成果を防災行政に活かした功績が、「防災功労者防災担当大臣表彰」を受賞している。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、地震研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、地震研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。